拓殖

朝鮮關係

全半島の國民精神總動員運動

【九・二七】 去る九日時報克服に關する南總督の告諭が發せられて以來總督府では一致協力これが趣旨徹底に努めてゐるがいよ〳〵今廿三日から國民精神總動員の大進軍が展開された、南總督は自らその陣頭に立ち廿一日宣教師大會出席者に對して朝鮮統治の根本を闡明し國體觀念の涵養を說いたのを始めとして廿三日午前七時朝鮮神宮大前に國威宣揚祈願祭並に産業報國宣誓式に臨み一場の訓示を與へこれをラヂオによつて全鮮に中繼した、引續き同日午後は金融組合聯合會講堂で開かれた全鮮農漁山村指導者大會に臨み更に總督は廿四日愛國婦人會朝鮮本部主催の時局に關する御諭告示式に、廿五日には全鮮中學青年大會に列席して訓辭を與へた、その他總督府では來る十月一日の施政記念日、十一月十日の國民精神作興詔書渙發記念日を中心として國民的精神作興運動を種々計畫されてゐる

銃後の産業報國運動

【九・二三】 重大時局に際し生産擴充を圖り産業報國を期するため廿三日秋季皇靈祭を期して朝鮮農會、朝鮮金融組合會、朝鮮漁業組合中央會、朝鮮山林會の關係四大團體の主催で國威宣揚祈願祭、農山漁村報國宣誓式を擧行更に引續き農山漁村振興關係官會同を催ふして全鮮にわたり産業報國の一大運動を展開した、この日午前七時より朝鮮神宮において南總督、大野政務總監を始め總督府各局長、甘蔗京畿道知事及び特に全鮮から召集された各府尹郡守、各道地方農務兩課長その他地方産業指導者代表者三百餘名參列國威宣揚祈願祭を行ひ引續き午前八時より同神宮廣場において農山漁民報國宣誓式を擧行南總督の訓示あり終つて宣誓文朗讀、萬歲を三唱して式を終り更に午前十時より朝鮮金融組合樓上に於て農山漁村振興關係官會同に入り政務總監、朝鮮軍參謀長等の訓示あり午前午後にわたり會議を行つたがこの日全鮮道主催地は勿論僻陬農山漁村に至るまで同樣式典を施行各種作業を行つて生業報國を誓つた

第二豫備金支出

【九・二六】 政府は廿八日の閣議を經て昭和十二年度朝鮮總督府特別會計第二豫備金より五十六萬一千二百十二圓を支出することになつたがその內譯は左の通りである(單位圓)

一 道路河川水害復舊費	三二三、六五〇
一 同補助費	一七五、七四七
一 土地改良工事水害復舊費補助	一〇、四九八
一 水害罹災者救濟施設費補助	六一、三二七
一 合計	五六一、二一二

臺灣關係

八角次官來臺

【九・二一】 臺灣統治狀況視察の八角拓務政務次官は廿一日午前十時卅分高砂丸で基隆に到着した

【九・二七】 八角政務次官は軍隊慰問使として廿七日午後三時定期船賓山丸で馬公來着軍官民の出迎ひを受け直に馬公要港部に和田司令官その他を訪問慰問の辭を陳べた

臺灣時差撤廢

【九・二八】 臺灣、澎湖列島、沖繩縣の八重山及宮古列島の標準時は東經百廿度の子午線を以て標準時決定の基準とし中央標準時百卅五度と一時間の時差を以て西部標準時を設けてゐたが交通、經濟等の躍進に伴つて內地との時差は著しく不便を來すので政府は今回十月一日を以つて西部標準時との時差を撤廢することに廿一日の閣議で決定廿八日の官報を以つて西部標準時に關する明治廿八年勅令第六十七號の改正を公布した、これに伴ひ臺灣では諸官署の執務時間、汽車、汽船の發著時間の改正が行はれることになつた、なほ南洋群島の標準時は現在、西部、中部、東部の三部制度になつてゐるが臺灣地方の標準時の改正に伴ひこれも明年一月頃より二部制度に改正し標準時の統一を期することになつた

樺太關係

商工政務次官樺太へ

【九・六】 木暮商工政務次官は約二週間の豫定で樺太、北海道地方の石油、パルプ等其の他重要資源の開發狀況視察のため廿八日午前十時上野驛發樺太に赴いた

對滿關係

滿洲少年移民計畫

【九・三】 拓務省の對滿移民五ケ年十萬戶計畫の先驅をなす本年度六千戶三萬人の移民計畫は五百萬圓の豫算を以て實行既に約三千戶の移民をなしたが今回新に大量の少年移民を實施することゝなり拓務省では滿鐵並に關東軍、滿拓公社等と連絡して積極的にこれが實現に乘出すことになつた、同移民は主として地方農村から海外雄飛の勇心に燃える高等小學卒業直後の少年約二萬乃至三萬人を募り從來の如き內地の訓練所を通さず直に滿洲に送つて現地に於て訓練をなし將來有能な指導者たらしめやうといふのであつてこれが具體策については廿二日滿洲より歸京せる安井拓務局長の現地調査に基き立案し明春早々實現を見る豫定である

滿洲移民協議會結成

【九・二九】 滿洲移民問題は支那事變の進展に伴ひ益々その重要性を加へ來つたが從來關係各機關の連絡不充分のため種々の不便を生じてゐる實情にあるところからこれが指導方針の統一を圖るべく滿洲拓殖公社、滿洲移住協會、農村更生協會その他關係諸團體並に各省關係官代表は先頃來これが具體策について大使館に會合種々協議を進めた結果滿洲移民協議會を設置することゝなり幹事五名、顧問若干名を置いて每月一回定期協議會を開き必要に應じて隨時會合することゝなつた、尙顧問には產組中央金庫理事長石黑忠篤日本國民高等學校長加藤完治、東大教授那須皓、京大教授橋本傳左衞門の四氏を決定した

◇ ◇ ◇

青木次長歸朝

【九・三】 北支に出張中であつた青木對滿事務局次長は北支に於ける經濟建設の基礎的調査を完了したので十九日天津發新京に立寄り關係當局と打合せをなした後廿一日新京發日滿連絡機「那須」號で同日午後四時四十五分羽田に歸着した

安井拓務局長歸朝談

【九・三】 安井拓務省拓務局長は滿洲拓殖創立總會に列席かたがた移民各地を視察して廿二日午前九時半東京驛着列車にて歸京直ちに拓相に現地の移民狀況を報告すると共に今後の移民對策について協議し更に陸軍省に柴山軍務課長、河村中佐を訪問同樣現地の狀況を說明し今後の對策につき協議したが同局長は次の如く語つた

滿洲に於ける我が第一次以下六次までの移民村を殆んど全部視察して來たがその結果國策として決定した移民計畫は既定方針通り遂行出來るといふ確信を得て來た、一部方面に移民計畫の遂行が將來困難に陷りはしないかと見てゐる向があるが滿洲移民は國防國策上からしても重大であり又既定の計畫では我が三ケ町村から一名位の割當て位にしかならぬので支障を來すなど絕對にあり得ないことである、從つて明年度以降に於ても既定計畫通り遂行して行く方針である

有田元外相歸朝談

【九・三】 滿洲北支を視察せる有田八郎氏は廿三日朝大連より門司寄港の日滿聯絡船熱河丸で歸來神戶に向つたが船中で左の如く語つた

一般的空氣を知つたのみで何も感想はない、今次の事變に對し滿洲國は張國務總理以下一致して時局に當り非常に緊張してゐた、國內治安の狀況は相當よくラヂオによる支那側のデマ放送にも拘らず一般に極めて平靜で落着いてゐる、北支では寺內大將にも會見したが頗る元氣であつた、北平は平靜になつて居り戰時氣分なんかちつとも見られなかつた、例の河北人の河北成るの標語も市中到るところに見られてゐるが經濟工作は事變が終つてからでなければ手はつけられまい

十河氏歸朝談

【九・二四】 興中公司社長十河信二氏は廿四日午前八時神戶入港の日滿連絡船熱河丸で歸來し三宮驛發特急燕で東上したが北支開發問題につき左の如く語つた

約六十日間天津において病臥して居た